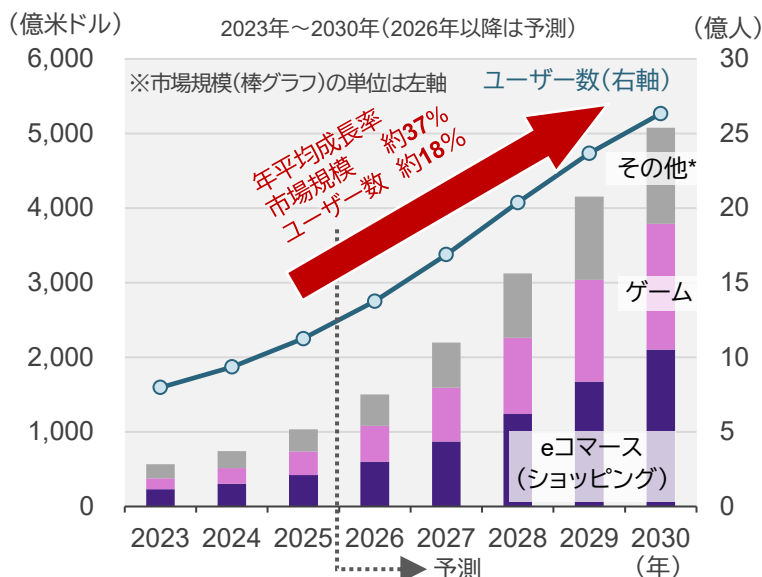


- メタバース(Metaverse)とは、「メタ(meta、超越)」と「ユニバース(universe、宇宙)」を組み合わせた造語で、デジタル上に構築された仮想空間・仮想世界のことで。
- 当初は、仮想世界で自分の分身である「アバター」を介して交流することが中心でしたが、近年ではデジタルツインや人材育成などへの活用が広がっています。

成長するメタバースの世界市場

- メタバースでは、複合現実(MR)や拡張現実(AR)、仮想現実(VR)などの技術を使い、ショッピング、ゲームやエンターテインメントへの参加、仮想不動産の売買など、現実世界と同様の経済活動が行われています。
- ビジネスの現場では、デジタルツイン(現実世界を仮想世界に再現)やNFT(非代替性トークン)といった技術が併用されていることから、仮想世界特有の価値提供や業務効率化などへの活用が広がっています。



出所: Statista
※上記は過去のものおよび予測であり、将来を約束するものではありません。

産業メタバースの基盤技術「デジタルツイン」

- 現実世界の製品や生産プロセスを仮想空間上に再現し、ARやVRを活用するなどして事前に検証することにより、生産開始前に不具合や設計上の問題を発見・修正することが可能になります。
- これにより、開発期間の短縮や生産性の向上、品質改善、コスト削減などが期待されます。

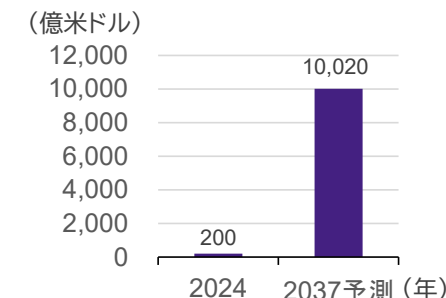
<主な事例>

製造現場: 設備や生産プロセスを最適化
都市開発: シミュレーションによる持続可能なまちづくり
医療分野: 病院運営の効率化や医療機器の寿命予測、病気の診断予測

<関連企業>

米Unity、独Siemens、米Microsoft、米General Electric、米Oracle など

世界のデジタルツインの市場規模



出典: SDKI Analytics
※上記は過去のものおよび予測であり、将来を約束するものではありません。

AIがスマートグラスを進化、「見る・聞く・会話する」デバイスへ

- スマートグラスとは、情報表示や通話、アプリ利用などの機能を備えたメガネ型デバイス(端末)です。
- 当初はスマートフォンを補完するハンズフリー端末として普及しましたが、近年はAI(人工知能)を搭載した「AIグラス」が登場し、実用性とファッション性を備えた次世代ウェアラブル端末として注目されています。
- 音声・画像認識に加え、端末側でLLM(大規模言語モデル)をはじめとするAI処理の進展などから性能が向上し、活用シーンが広がっています。

<主要メーカー・製品>

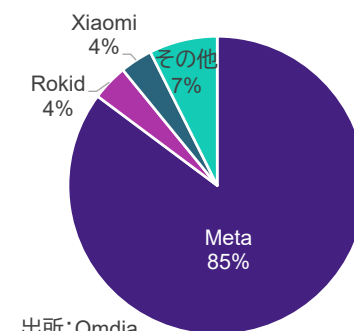
Meta(Ray-Ban Meta、Oakley Metaなど)

写真・動画撮影、通話、メッセージ送信、音楽再生に加え、Meta AIによるアシスタント機能を搭載

Google(Android XR Glasses(Samsung、Qualcommと共同開発))

通話、翻訳、ナビゲーション、画像認識に加え、Geminiと連携する機能を搭載(2026年中の投入を計画)

AIグラスの世界出荷シェア(2025年)



出所: Omdia
※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

※公開情報など信頼できると判断した情報をもとにアモーヴァ・アセットマネジメントが作成。情報の正確性・完全性について当社が保証するものではありません。

記載の銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

2025年9月1日付で、日興アセットマネジメント株式会社から社名変更しました。

当資料は、アモーヴァ・アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社